

*** 今日の健康 (9月) ***

< 熱性けいれん >

生後6ヶ月から6歳くらいの乳幼児は、いろいろな原因でけいれん（ひきつけ）を起こすことがあります。小児期前半は脳が急速に発達するため、脳の未熟性と脳代謝が盛んなことがけいれんを起こしやすくしています。けいれんは高熱によるものが最も多く、約1割の人が一度は経験しているようです。けいれんを繰り返し起こす場合、潜在的な病気に起因していることもありますので、脳波測定など専門的な検査が必要です。

< 熱性けいれん（単純性熱性けいれん） >

インフルエンザや扁桃腺炎・突発性発疹などに罹り 38 度以上の高い熱が急に出たときに起こります。けいれんは体がガクガクしたり手足が硬直することもあります。たいてい数分間で治まります。あわてずに衣服をゆるめて涼しい部屋に寝かせて熱を下げてください。吐くようでしたら体を横向きにして、吐いたものが喉に詰まらないように注意が必要です。けいれんを起こしやすい子供さんは、発熱の度にけいれんを繰り返すことがありますので、抗けいれん剤を備えて対処しましょう。

< 熱性けいれんの特徴 >

1. 初めての熱のひきつけは生後6ヶ月～6歳。
2. 家族に無熱性けいれん（てんかん等）の人はいない。
3. 知能や運動発達の遅れや、肢体不自由などが無く、しかも脳障害を起こしうるような重い病気をしていない。
4. けいれんに発熱を伴っている。
5. けいれんは左右対称で全身性。
6. けいれんは10分以内で終わり、後に麻痺などを残さない。
7. 脳波上てんかん性異常波を認めない。
8. けいれんの回数は少なく（年に4～5回以内）、24時間以内に2回以上反復することはない。



< その他のけいれん >

熱性けいれん以外で子供に多いのは、てんかん・憤怒けいれん・點頭てんかん・脳性マヒ・髄膜炎・日本脳炎などがあります。それぞれにけいれんの内容も異なりますので、診察の際にけいれんの様子や、何分くらい続いたかなど詳しく医師に伝えてください。けいれんが10分以上続いたり目覚めたときの様子がおかしい。体の麻痺が治らないなどの場合は髄膜炎や脳炎の心配もありますので、急いで病院に行きましょう。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏